

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 24 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23780227

研究課題名(和文) 日英における大学の地域連携システムに関するアクションリサーチ

研究課題名(英文) Action Research for University Engagement in Rural Development: A Comparison between Japan with UK

研究代表者

中塚 雅也 (NAKATSUKA, MASAYA)

神戸大学・(連合)農学研究科(研究院)・准教授

研究者番号：40432562

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円、(間接経費) 810,000円

研究成果の概要(和文)：英国の北部イングランドの農村地域における地域学習ネットワーク“The Northern Rural Network”を事例として、地域協働による活動マネジメントの特性を明らかにするとともに、発展のプロセスと要点、課題を明らかにした。これらの知見を日本の農村地域に援用することにより、兵庫県の中山間地域を拠点とした学習ネットワークを設立するとともに、その実践の分析に基づき、地域特性に応じた地域課題解決と人材育成のシステムと大学の役割を提示した。

研究成果の概要(英文)：Universities engagement is required for rural development internationally. Initially, this study focuses on a rural learning network project, the Northern Rural Network, in North East England and find out the essentials of management and organizational development. Secondly, we established the new learning network by transferring the findings in UK to Japan. The result of the these comparative studies and the action research shows that one of the regional system for problem-solving and human resources development in rural area and the role of universities in this system.

研究分野：農学

科研費の分科・細目：農業経済学・農業経済学

キーワード：地域連携 人材育成 学習ネットワーク 内発的発展 農村地域 国際情報交換

### 1. 研究開始当初の背景

農村地域の少子高齢化がすすみ、コミュニティ機能が弱体化するなか、地域を支え、新たな価値を創造する人材の育成が重要となっている。農村地域のリーダー育成は、古くからの課題であるが、地域が有していた社会的な人材育成システムが崩壊しつつある今日、その再構築が早急に求められている。

一方、近年、大学の地域連携（貢献）活動が積極的に推進されている。大学の知識を源泉に、大学のシーズと地域のニーズをマッチングさせ、実用的な問題解決や価値創造をおこなう「社会貢献」が、もう一つの大学の使命として期待されている。特に、農学分野においては、「フィールドサイエンスの推進」という位置づけからも、現場での研究と教育と社会貢献を融合した独自の地域連携システムの構築が求められている。

しかしながら、我が国の大学の実態をみると、属人的な個別の実践的研究、地域貢献活動にとどまり、大学と地域が連携した体系的な人材育成の仕組みが確立されるには至っていない。また、こうした地域連携システムの確立は、国際的な共通課題であり、国内外の比較分析による、相互発展の促進が求められている。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、第一に、英国の大学の地域連携システムを、社会的条件との関係のもとで明らかにし、その要点や課題を分析することである。その上で、第二に、その英国での知見を日本における新たな地域学習システムの構築に移転させ、その実践を評価分析する。以上の結果から、第三に、人材育成を中心とした地域連携システム構築の要点と課題を考察するとともに、日英の地域連携システムの相互発展の関係性を実践的に構築することを目的とした。

### 3. 研究の方法

英国での事例調査を最初に実施した。英国ニューカッスル大学における地域連携の活動に参加し、地域貢献、人材育成のシステムについて事例研究をおこなった。

その上で、英国での事例調査で得た知見を援用することにより、日本での地域連携システムの実験的な制度設計とその実施・評価をおこない、日英間での事例比較分析による体系化をすすめた。

これらは全体として一つのアクションリサーチとして設計されており、既存研究や基礎調査に基づく「問題の設定」の後、「分析」を英国の大学でおこない、「計画」「実施」「評価」を日本の大学で行うとともに、その修正展開（「行動」）を両国間でおこなった。

### 4. 研究成果

(1)英国における地域学習ネットワーク組織(The Northern Rural Network)の運営と特性

農村の活性化を支える地域ネットワークのあり方を考察するため、英国、北部イングランドにおいて、The Northern Rural Network”を事例として取り上げ、その運営実態と課題を明らかにした。このネットワークは、ニューカッスル大学農村経済センター(Centre for Rural Economy)を中心に設立され10年以上におよぶ実績をもつ。

調査の結果、The Northern Rural Networkは、構造改革を求められていた北部イングランドの農村地域の社会経済条件、新内発的発展論の理論的展開を背景に、公共、民間、ボランティア等の地域の各セクターの連携のもと、大学が中心となり、外部資金援助を得ながら運営されてきたこと、その展開は3つの段階に分けられ、セミナー等を通じた質の高い情報獲得・共有の機会提供を通して、1,300人におよぶ幅広い会員を有する地域ネットワークとして成長してきたことが分かった。

さらに、この間の活動の発展とステークホルダーから得られている高い評価の要因は、農村地域の人的資本、社会関係資本の強化を目的とした学習ネットワークとして、地域を限定しつつも開放的に設計されていること、大学が主導することによりセミナーなどの活動の質を保証し、利害関係からの独立性を保っていること、さらには、公的な資金援助により無償でサービスが提供されてきたことなどがあることが分かった。しかしながら、その一方で、継続的な活動資金調達や支援と学術研究の関係づけなどが、大きな課題となっていることが明らかになった。

また、本事例のような学習ネットワーク組織を、日本および他国での設立運営するにあたっては、活動資金の確保が本事例と同様に大きな課題となること、さらには、このような学習ネットワークを農村地域が備える社会共通資本として位置づけた上で、日本においてはネットワークの新設でなく再編を前提とした推進が必要であることを示した。

### (2)日本における地域学習ネットワーク(Rural Learning Network)の運営モデルの確立

先の英国での事例分析で得た知見をもとに、兵庫県の中山間地域において新たな学習ネットワーク“農の学び場：Rural Learning Network”の設立、運営をすすめた。結果、大学が事務局機能を担いながらも、実践コミュニティを基盤としたセミナーを開催することにより学習ネットワークが機能すること、またその学習ネットワークから、新たな実践コミュニティが生まださせることが確認された。

以上の比較研究および実践の結果から、農村地域の課題解決と人材育成を可能とする地域システムをモデル提示するとともに、対話・実践型のセミナー実施や人材ネットワーク構築の実践的な要点、地域アクターとして

の大学の役割や課題を明らかにした。

また、実践面でも、日英間の継続的な知識交換の体制が整えられ、アクションリサーチとして継続されることとなった。

### (3) 大学との連携による地域再生システムの体系化

日英の地域学習ネットワークの分析と実践と平行して、大学と地域の連携関係構築のプロセスを整理し、地域再生システム構築のための要素を明らかにした。

具体的には、大学・大学生が、農山村再生にコミットする理由について、農山村の視点、大学生・若者の視点、政策展開の視点から整理した。次いで、我が国の大学の地域連携活動の広がりや体系的に整理した上で、活動を類型化し、その支援課題を提示した。そのなかで、農山村に設置されたサテライト施設の機能について明らかにするとともに、地域と大学の調整を担うコーディネーターの重要性について考察した。

また、総合的な地域連携の実践事例として、神戸大学と兵庫県篠山市との連携の取組と福島県の取組を事例として、その展開プロセスを分析し、大学との連携による地域再生システムの構築の段階性、および要点と課題を明らかにした。

制限のもとでの目標設定

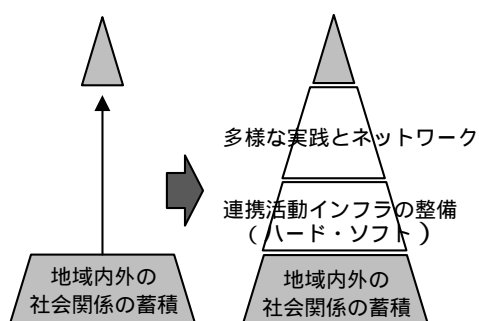


図 地域連携活動の段階性

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 〔雑誌論文〕(計 7 件)

内平隆之・中塚雅也・布施未恵子(2013), 学生地域活動コミュニティの課題と組織的支援, 農林業問題研究, 49(2), 255-260, 査読有

中塚雅也・鈴木曜・布施未恵子(2013), 大学と地域の連携による農体験学習の展開と課題, 農林業問題研究, 49(2), 267-273, 査読有

中塚雅也(2013), 多様な主体の連携・協働と「小さな拠点」づくり, 人と国土, 39(2), 国土計画協会, 25-28, 査読無

中塚雅也(2012): 農村地域における学習ネットワーク組織の運営と課題-英国 The Northern Rural Network を事例として-, 農林業問題研究, 48(1), 97-103, 査読有

内平隆之・中塚雅也(2011): 地域連携活動における農村地域サテライトの役割と課題, 農林業問題研究, 47(1), 47-53, 査読有

中塚雅也(2011): 多様な主体の協働による地域社会・農林業の豊かさの創造, 農林業問題研究, 46(4), 405-415, 査読無

中塚雅也(2011): 地域連携型 実践的教育が結びつける地域と大学, 農業と経済, 77(2), 85-90, 査読無

### 〔学会発表〕(計 7 件)

柴崎公平・井上優・中塚雅也: 地域おこし協力隊のリテンションマネジメント, 2014年度日本農業経済学会大会, 神戸大学, 2014年3月30日

内平隆之・中塚雅也: 移動コストに基づく地域連携活動の類型化と支援課題, 第63回地域農林経済学会大会, 個別報告, 岡山大学, 2013年10月19日

中塚雅也: 農村地域の人材育成と協働的アプローチ, 第63回地域農林経済学会大会特別シンポジウム, 岡山大学, 2013年10月18日

中塚雅也・鈴木曜・布施未恵子: 大学と地域の連携による農村体験学習活動の展開と課題, 第62回地域農林経済学会大会報告, 大阪経済大学, 2012年10月21日

内平隆之・中塚雅也・布施未恵子(2012): 地域連携における学生活動コミュニティの生成と組織的支援, 第62回地域農林経済学会大会報告, 大阪経済大学, 2012年10月21日

Luke Dille, Mieke Fuse, Masaya Nakatsuka: Participating in Rural Development: The Rural Learning Network, 第62回地域農林経済学会大会報告, 大阪経済大学, 2012年10月21日

中塚雅也: 農村活性化のための地域ネットワーク組織の運営と課題 英国 The Northern Rural Network を事例として, 第61回地域農林経済学会大会報告要旨集, 愛媛大学, 2011年10月21日

〔図書〕(計 2件)

中塚雅也,内平隆之,小田切徳美(2014):  
大学・大学生と農山村再生(共著),筑波  
書房,62

中塚雅也(2011):農村の知識の管理と創  
造,農村ビジネスの創造,農村コミュニ  
ティの見方,地域づくりの進め方,大学  
と地域のつきあい方,現場の声を聞く講  
義,中塚雅也編,農村で学ぶはじめの一  
歩—農村入門ガイドブック,昭和堂,  
54-57,62-65,96-99,100-103,130-131,

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

中塚 雅也 (NAKATSUKA MASAYA)

神戸大学・大学院農学研究科・准教授

研究者番号: 40432562